アーティストのために整備した「AIR Hiroshima Studio」と「AIR Hiroshima Gallery」の活用による地域の文化・芸術の振興への寄与（2022-2024年度）

石谷治寛（代表、芸術学部）
稲津あや子（芸術資料館）

2022年度

横川エリアマネジメント連絡協議会がアーティスト・イン・レジデンスとして整備したStudio＆Galleryのコンセプトを定め、利用規約を策定する。

それに基づき予約可能な利用システムを構築する。

スペースを積極的に活用して、教員・学生・地域住人が連携する。

横川を文化芸術の振興可能な場所として周知することを目指す。

2023年度

地域での文化芸術の取り組みを広げるために芸術祭の運営者を囲んだ議論を行い、地域に開かれたワークショップを行う。

前年度の使用や点検からGalleryはベニヤ版の変色や、入り口の閉鎖性を改善するために、改修工事と備品・環境整備を行う。

2024年度

メディアアーティストによる滞在制作と展示やワークショップを通した、地域の魅力の発見、滞在アーティストとの交流を促進する（横川まちの芸術祭と連携）

「他のレジデンス滞在中の寄り道スポット」として、レジデンス同士を結ぶサテライトスタジオとして展開する。そのために、横川エリアと同じく地域に根ざしたアートプログラムを展開する他のエリアへの調査を行う。

これまでの活用事例についてのリーフレットを作成する。

202206-
横川創作者会議-YCAの発足

Yokogawa Creators Assembly

202207-
利用規約の立案・改訂

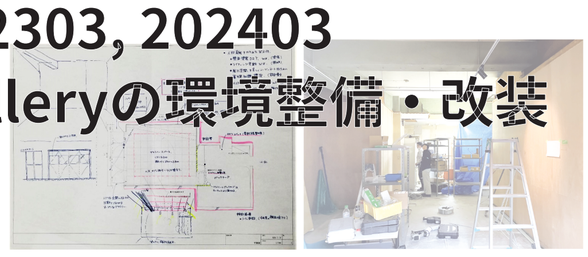
・横川エリアマネジメント連絡協議会 は施設管理を担い、創作者主体のギャラリーとスタジオの運用・企画・コーディネートの母体として横川創作者会議-YCAを発足させて、そのグループを連絡先の窓口とした。向井陽子さんの協力。

・学生が提案したアイデアを基に横川での運営実態に即した利用規約を立案し、試運用を開始。その後運用に応じて規約改訂した。

・美術作品の展示に即した利用を可能にするために、釜本彩さんの協力で天井を壊し、電源レールを取り付ける工事を行い、照明を揃えた。

さらに、市の助成金も活用して、入口ファサードを整備し、カーテンを導入。

202303, 202403
Galleryの環境整備・改装



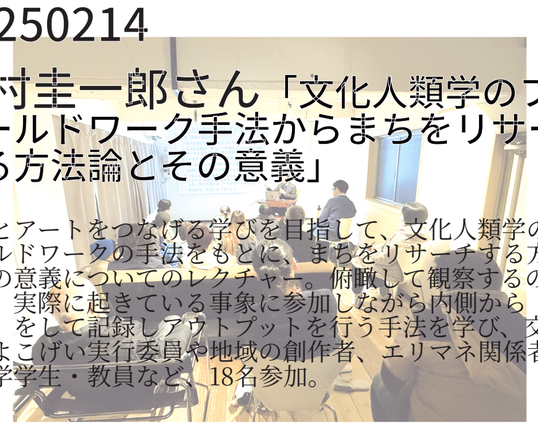
リサーチ＆ネットワーク形成

目標として創作と横川地域を結びつける芸術活動やリサーチ方法について講師を囲む会を開催。さらにサテライトレジデンスと位置付け、他の地域の取り組みのリサーチとともにネットワークを広げた。

20231226
山重徹夫さんを囲む会

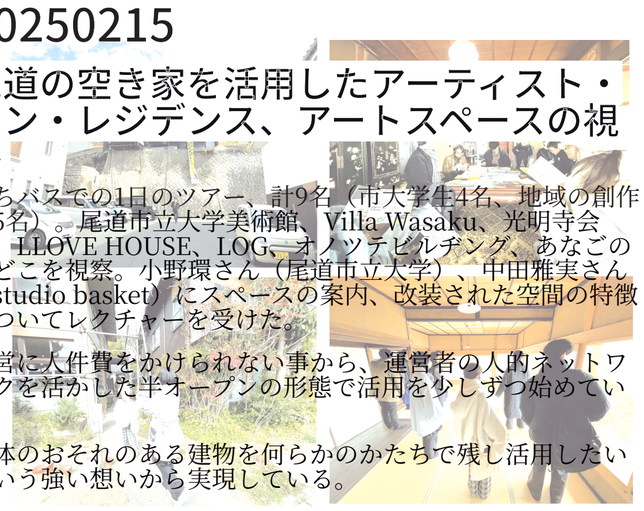
中之条ビエンナーレ（群馬県中之条町）」の運用について、「町おこしとアート」という視点でのレクチャー。アートに関わる「制作者」「鑑賞者」「主催者」3つの立場をつなぐ「マネジメント」の視点で、資金面、地域とアーティストの優良で前向きな関係づくりについて学んだ。

20250214
松村圭一郎さん「文化人類学のフィールドワーク手法からまちをリサーチする方法論とその意義」



地域とアートをつなげる学びを目指して、文化人類学のフィールドワークの手法をもとに、まちをリサーチする方法論とその意義についてのレクチャー。俯瞰して観察するのではなく、実際に起きている事象に参加しながら内側から「参与観察」をして記録しアウトプットを行う手法を学び、交流会。よこげい実行委員や地域の創作者、エリマネ関係者、市立大学学生・教員など、18名参加。

20250215
尾道の空き家を活用したアーティスト・イン・レジデンス、アートスペースの視察



いちバスでの1日のツアー、計9名（市大学生4名、地域の創作者5名）。尾道市立大学美術館、Villa Wasaku、光明寺会館、LLOVE HOUSE、LOG、オノツテビルヂング、あなごのねどこを視察。小野環さん（尾道市立大学）、中田雅実さん（studio basket）にスペースの案内、改装された空間の特徴についてレクチャーを受けた。

運営に人件費をかけられない事から、運営者の人的ネットワークを活かした半オープンの形態で活用を少しずつ始めている。

解体のおそれのある建物を何らかのかたちで残し活用したいという強い想いから実現している。

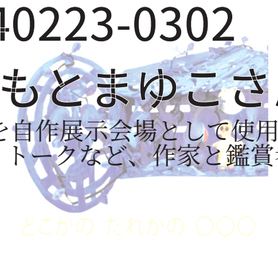
アーティストによる滞在と展示やワークショップ

地域での文化芸術の取り組みを広げるために芸術祭の運営者を囲んだ議論を行い、地域に開かれたワークショップを行う。

20240219,20
ねっこかなこさんWS

期間中は周辺リサーチからなる自身の作品制作、および子どもとその保護者対象の日本画ワークショップを開催。

20240223-0302
にしもとまゆこさん展示

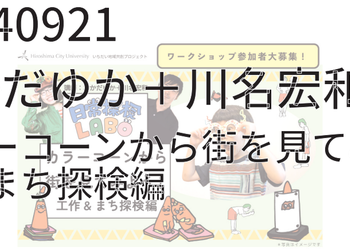


Studioを自作展示会場として使用。会期中は本人によるアーティストトークなど、作家と鑑賞者が交流できるプログラムも企画。

202408-09
川名宏和さん滞在制作、展示

Studioを自作展示会場として使用。会期中は本人によるアーティストトークなど、作家と鑑賞者が交流できるプログラムも企画。

20240921
おかだゆか＋川名宏和



カラーコーンから街を見てみよう！工作＆まち探検編

地域からの声

早いものでもう３年目になるのですね。

このプロジェクトが始まって見違えるほど横川のアート活動が活性化しました。

アート活動に参加される人材も増え、横川の街に大きな魅力が加わったと感じています。

202205-12

ひろしま国際平和文化祭アニメーションシーズンアーティストがStudioに滞在

202209

横川商店街劇場の一周年資料展示（Gallery）

202206-202312

文化庁大学における文化芸術推進事業（2022年−2024年度）の取り組みとして広島芸術都市ハイヴ（HACH）のワークショップ会場として不定期に使用

202309-10

横川まちの芸術祭 -よこげい-

ヴィヴィアン佐藤さんStudio滞在

Galleryで成果展示など

202409

横川まちの芸術祭 -よこげい-

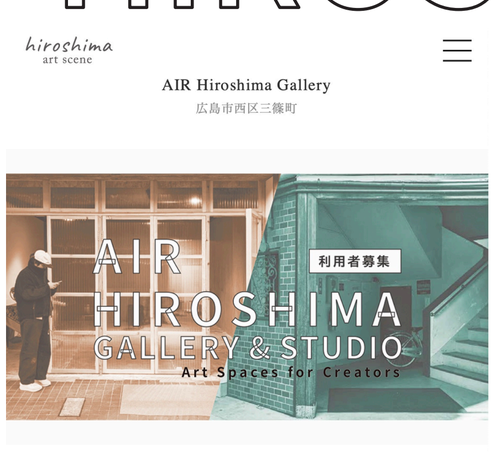
地域の店舗でねっこかなこさんの展示など

Galleryで川名宏和さんの作品展示

202412-01, 202503-04

下瀬美術館のグループ展に向けたStudioでの滞在リサーチ＆制作

HIROSHIMA AIR GALLERY＆STUDIO



滞在も、制作も。すべての作る人のために。

AIR Hiroshima GalleryおよびAIR Hiroshima Studioは、広島の各エリアからアクセスしやすい、広島市西区横川駅徒歩5分の場所にあります。地域団体、商店街や地域で活動する創作者等が協力し、横川地域の文化芸術の発展、地域団体、商店街や地域で活動する創作者等が協力し、横川地域の文化芸術の発展、地域と広島内外の創作や研究に携わる方々を繋ぐ場づくりを目的に運営を行っています。

AIR Hiroshima Galleryは展示・イベント等、AIR Hiroshima Studioは創作、研究、リサーチの拠点等にご利用いただけます。

*スペースの運営にあたり、広島市立大学社会連携センター地域共創プロジェクト（2022－2024 年度）の助成を受けました。

YOKOGAWA ART WINDOW

夜間でも通りを明るくするため横川ベースのウィンドウを展示スペースとして活用する。
今後希望者を募り定期的に展示作品を期間毎に変更させていきたい。

広報と情報発信

2023年度末に利用者募集のフライヤーを作成。Web発信についてはヒロシマ・アートシーンでのイベントと展示の告知およびInstagram / Threadsでの発信を横川創作者会議メンバーが行っている。

今後の予定　リーフレットの作成

３年間のStudioの滞在アーティストの紹介を中心に、現在の活動状況をまとめたリーフレットを3月までに作成したい。それを広島地域の文化芸術団体やレジデンスに配布しネットワークを広げる。